

平成26年度 各種調査結果等を活用した学力向上の取組事例

事務所名	宮古	学校名	岩泉町立岩泉中学校	TEL	0194-22-2154
------	----	-----	-----------	-----	--------------

授業と家庭学習のサイクル化に取り組んで

1 ねらい

- 授業と家庭学習のサイクル化をはかり、「確かな学力」の育成を図る。
- 家庭学習を習慣化し、「学び続ける力」を育てる。

2 具体的な実践

(1) 授業と家庭学習のサイクル化

① 家庭学習を授業に生かす5つのねらい

本時の授業で何を身に付けさせたいか、そのために、生徒にどのような家庭学習を促し、そして、どのようなねらいをもって授業づくりに生かすのかというサイクル化について着目した。そこで授業における家庭学習の生かし方、ねらいについて、以下の5点にまとめた。

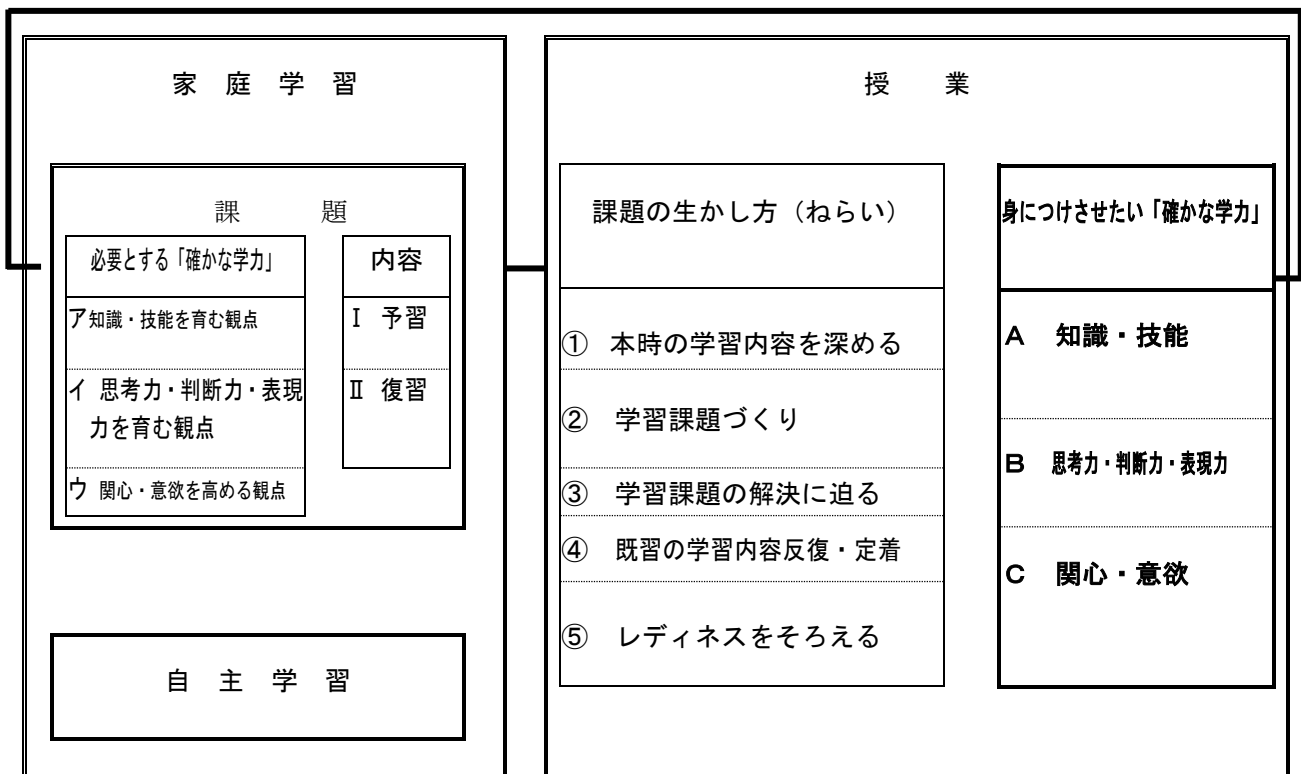
<家庭学習の生かし方>

- ア 本時の学習内容を深める
- イ 学習課題づくり
- ウ 学習課題の解決に迫る
- エ 既習の学習内容反復・定着
- オ レディネスをそろえる

従来すすめてきた家庭学習は、左記エに偏る傾向があった。しかし、そのみでは、知識・理解の定着にはつながるが、「確かな学力」の三要素をバランスよく育成することはできない。単元を通し、知識・理解の定着とともに、思考力・判断力・表現力の醸成、関心・意欲の喚起をバランスよく行うことを念頭に、家庭学習の内容、必要とする力とともに、家庭学習を授業にどのように生かしていくか、左記5つのねらいを明確に位置づけ、質の高い「授業と家庭学習のサイクル化」を図ることとした。

② 授業と家庭学習の具体的なサイクル

授業と家庭学習のサイクルを具体的に構想する際、下図をもとに授業を構想した。



③授業の中での実践例（指導案より抜粋）

◇社会 公民 第3章 現代の民主政治と社会 3節 地方政治と自治

●本時で身につけさせたい確かな学力

B 思考力・判断力・表現力

●本時の授業と家庭学習のサイクルパターン

ウ→I→①→B

●授業構想

本単元を貫く課題は、「岩泉のまちづくりを提案しよう」である。岩泉のまちづくりを提案するため、前時までで地方自治の概要を学んできた。本時は、架空の町のまちづくりを考えることを通して、「B思考力・判断力・表現力」を身に付けさせることをねらいとし、岩泉のまちづくりを考える際の視点を学ぶ時間である。

地方自治の概要を学ぶまとめの時間となった前時の最後に、岩泉のまちづくりを考えるにあたって、家の人が岩泉町に対してどのような意識をもっているのか、またどのようなまちづくりのアイデアを持っているのか、インタビュアーになって調査するという「ウ 関心・意欲」を必要とする「I 予習」的な内容である宿題を提示した。本時では、展開部で、視点を学ぶために他町（架空）のまちづくりを考えさせ、必要な視点を整理する。その後で、実際に家の人は、岩泉のまちづくりをどのような視点で考えたのか、習得した視点を活用して考えさせる。ここで生かした前時の宿題は、「① 本時の学習内容を深める」ねらいをもつ。したがって、上記の「岩泉中における授業と家庭学習の具体的なサイクル」にあてはめると、左から「ウ→I→①→B」となる。このあと、本時の宿題は、今日学んだ視点から岩泉のまちづくりについて考えてくることであると告げる。最後に、授業の感想を記入、発表し、視点を習得した意義を共有した上で、授業を締めくくる。

◇数学 第6章 空間図形 第1節 いろいろな立体

●本時で身につけさせたい確かな学力

C 関心・意欲

●本時の授業と家庭学習のサイクルパターン

ウ→I→①→C

●授業構想

本時は、「身のまわりの立体に関心を持ち、全体の形をとらえて、分類・整理しようとしている」ことを目標とし、【関心・意欲】を身につけさせるための授業となる。前単元では、平面図形について学習をしてきた。空間図形の学習は、平面図形の内容を基礎にしており、関連している内容である。

本時では、立体作りを通して、具体物を観察、操作することによって意欲の喚起を図り、本単元の導入とするとともに、立体がどんな平面図形で構成されているかを調べていきたい。前時に出した宿題は、「身のまわりの建物は、どんな形の面でできているか調べる。」であるため、「ウ関心・意欲」を必要とする「I 予習」的な内容である。本時の目標を考えると、宿題は「①本時の学習内容を深める」ねらいをもつ。したがって、上記の「岩泉中における授業と家庭学習のサイクル」にあてはめると、左から「ウ→I→①→V」となる。

また、次時の宿題については、本時で学んだ立体を分類する視点をを用いて、「教科書P168の問題を、第1時で学習したいろいろな見方で分類・整理してくる。」という予習的な内容となっている。

(2) 家庭学習の習慣化

2学年の3学期からは、中学校3年間のまとめとして家庭学習として副教材を用いて取り組ませた。教科について曜日指定をし、「基礎＋応用問題」、「応用＋発展問題」に取り組むものと、生徒の実態に合わせて教材を選択させた。3年になって部活動も終わり、学習に本格的に向かう時期から、その課題も量を増やし、学年担当が交代でノート点検をしている。提出が遅れたり、課題が思うように進んでいない生徒は、適切な時期に担任が個別に支援を行い、継続した取り組みができるように配慮した。

(3) 各種調査による同一集団の経年変化

①平成24年 1年次の岩手県学習状況確認調査の結果

ア 国語

- ・平均正答率が県を下回り、観点別では「読む」が県平均を上回ったが、それ以外の3つの観点はすべて県平均に届かなかった。

イ 数学

- ・平均正答率が県を上回り、観点別では全観点、領域別では「数量関係」をのぞいた4領域で県平均を上回った。

②平成25年 2年次の岩手県学習状況確認調査の結果

ア 国語

- ・平均正答率が県をやや上回り、観点別では「書くこと」をのぞいて県平均を上回った。

イ 数学

- ・平均正答率が県を上回り、観点別では全観点、領域別では「資料の活用」以外は県平均を上回った。

③平成26年 3年次全国学力・学習状況調査の結果

ア 国語

- ・A「主として知識」では平均正答率が県より10%、B「主として活用」では18%上回った。
- ・観点別ではAの「話すこと・聞くこと」「読むこと」では県に届かなかったが、Bでは全観点・全領域県より上回った。

イ 数学

- ・A「主として知識」、B「主として活用」とともに平均正答率で県を上回った。
- ・観点別ではAの「資料の活用」、Bの「図形」で県に届かなかったが、領域ではABともに県を上回った。

3 成果

- 生徒アンケートの結果から、生徒自身が取り組んだ家庭学習が授業に生かされていると実感できる割合が高くなった。
- 諸調査の結果から、思考力・判断力・表現力に関わる数値の伸びが見られた。
- 「確かな学力」を構成する要素を、本時で身につけさせたい力として位置付けることで、ねらいが明確である授業構想を立てて、授業を行うことができるようになった。
- 各種調査の結果を分析することで、生徒にどのような力がつき、何が不十分なのかについて明らかにすることができた。
- 各種調査の結果を校内研究の検証材料の一つとし、研究の成果と課題を明らかにすることができた。